

茨城県立産業技術短期大学校

茨城県立産業技術短期大学校 関根 功史

1. はじめに

茨城県における戦後の職業能力開発行政は、昭和21年4月に「職業補導所」を水戸市に設置し、その後県内各地に訓練科を設置して、昭和23年に「公共職業補導所」、昭和33年に「職業訓練所」、昭和44年に「専修職業訓練所」、昭和49年に「高等職業訓練所」、昭和51年に「高等技能専門校」、昭和62年に「産業技術専門学院」として、時代の要望に応じて改廃を繰り返してきました。

現在の茨城県の県立職業能力開発施設は7校あり、高度職業訓練を実施する産業技術短期大学校は水戸市に、普通職業訓練を実施する産業技術専門学院は、水戸市、日立市、鹿嶋市、土浦市、筑西市、古河市にそれぞれ設置されています。

本県の産業は、電気機械産業が集積する日立・ひたちなか地区や重化学工業の鹿島地区などの生産拠

点や、研究開発拠点としてのつくば地区を有し、全国8位の製造品出荷額を誇っています。

また、県内総道路延長距離は全国2位、可住地面積は全国4位と、生産拠点と居住地の広域化という状況に対応して、県内6地域7ヵ所に能力開発施設を設置し、各地域の産業界の要望に応じた訓練を実施しています。

そのようななかで、高度IT化時代に対応した「いばらきブロードバンドネットワーク」の整備、東海村に建設中の「大強度陽子加速器」を中心とした未来産業を創出する「サイエンスフロンティア21構想」など新技術の開発や新産業の創出が進んでいます。また、これらの取り組みをより確実なものとするためのつくばエクスプレス・北関東自動車道路・茨城空港の整備等による交通基盤網の整備が進んでいます。

このような分野ではITに関する高度な専門知識・技能を持った人材が求められており、その人材を育成する施設が要望されていました。

この要望に応えるため、県立水戸産業技術専門学院の情報技術科を高度化再編して短期大学校化し、平成17年4月に「茨城県立産業技術短期大学校」を設置しました。

2. 茨城県立産業技術短期大学校の理念

本校は以下の方針に基づき運営しています。

- ・ 県の産業振興方策に貢献できる人材の育成
- ・ 県内企業の中核となる高度な技術を持った人材の育成



短大棟全容

・即戦力となる人材の育成

これらの理念を実現するために、応募枠には高校新規卒業者のみならず、社会人推薦枠を設けて広く応募者を募り、少人数制によるきめ細かな指導を実施して地域の要望に応じた人材の育成を行っております。

3. 施設の概要

本校のキャンパスは、水戸市下大野町に設置されています。敷地面積は、約49,100平方メートル、建物面積は約4,200平方メートルで、短大棟、講堂棟から構成されています。また、敷地内には水戸産業技術専門学院が併設されています。

当校の組織は、学校長・副校長・庶務課3名・教務課13名で構成されています。教務課では高度職業訓練の専門課程として情報通信科と情報処理科を、おのおの定員20名、訓練期間2年で実施しています。

4. 教科の内容

教務課で実施している各科の内容は以下のとおりです。

(1) 情報通信科

工業製品の開発・設計・製造・保守管理に関する部門でITに係る比重が高くなり、IT技術者育成の要望に応じ、以下の内容で教科を行っています。

- ・情報通信に係るネットワークプログラム
- ・ロボット等のシステムプログラム
- ・コンピュータグラフィックスなどのマルチメディア技術

以上の内容を修得するため、通信実習室2室、ネットワーク実習室、画像処理室、電子工学実験室を設置し、C言語、Java言語、アセンブリ言語、電子工学、計測工学、画像処理工学、ネットワーク構築、パケット解析、ネットワークプログラミング、組込技術等の教科を行っています。



ネットワーク実習



マルチメディア実習



電子工作実習

(2) 情報処理科

企業活動・社会活動の基盤となる情報の処理においては、業務の多様化・迅速化・省力化およびIT技術の進展により、プログラム開発・データ処理部

門等において、より専門的なIT技術者が求められるようになったため、以下の内容で教科を行っています。

- ・データベースシステムの開発・運用・管理
- ・システム開発技法をもとにしたプログラム開発



プログラミング実習



システム開発実習



グループ討議

- ・経営工学の知識をもとにした業務アプリケーションの設計・構築

以上の内容を修得するため、情報処理実習室2室、ネットワーク実習室を設置し、C言語、Java言語、VisualBasic、経営工学生産管理、セキュリティ技術、数理統計技術Oracle実習、システム開発実習、物流・在庫管理実習等の教科を行っています。

(3) 各科共通の教科

特定の専門分野だけでなく、創造力豊かな人間性を養うことにより、「問題解決能力」を修得して職業生活に役だてるため、以下の教科を行っています。

- ・人文科学、社会科学、語学等の「一般教養」
- ・地域特有の産業経済状況を把握するための「地域経済論」
- ・各教科の集大成およびドキュメント作成能力、プレゼンテーション能力等の向上を図るための「卒業研究」

5. 資格試験取得状況

本校の理念の1つとしている「各種情報処理技術者試験の合格」においては、平成17年度秋期から受験し、基本情報技術者は93名、ソフトウェア開発技術者は14名（平成21年7月1日現在）取得しております。また合格率は全国平均を上回る年度も多く、高い評価をいただいております。

6. トピックス

平成20年8月6日から8日に職業能力総合大学校（神奈川県相模原市）で開催された「第3回若年者ものづくり競技大会」に情報通信科からITPCネットワークサポート職種に2名、ウェブデザイン職種に2名参加し、ITPCネットワークサポート職種で1,2位を受賞しました。

また、平成20年10月31日から11月3日に幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催された「第46回全国技能

五輪全国大会」に情報通信科からITPCネットワークサポート職種に1名、ウェブデザイン職種に2名参加し、ウェブデザイン職種で「敢闘賞」を受賞しました。

本校の取り組みおよび学生の真摯な態度を評価していただくよい機会でした。

今年度は、本県で第47回全国技能五輪全国大会が開催され、当校でも参加する予定です。現在の学生、今後の入学者の励みになるよう現在訓練に励んでいるところです。

7. おわりに

平成17年に開校以来、「県内企業の中核となり、即戦力となり得る人材の育成」を理念として、各教科の実施においては、「知識・技術の修得のみでなく、それらを職業生活で生かすためのより実践的な手法の習得」を目指しました。

その結果、就職率100%および全国平均を上回る資格取得という結果を達成しています。

平成20年秋に発生した「100年に一度の経済危機」以降、本校周辺の産業界の状況も厳しい状態にあります。そのような状況においても、「このような状況であるから良い人材が欲しい。」「単なる知識・技術の保有者ではなくて、人間性を含めた能力のある人材が欲しい。」といった理由で当校には昨年と同様に求人をいただく企業が多数あります。

現在の産業界は、世界に冠たる「ものづくり技術・技能」の継承とその転用、急速な技術革新、高度情報社会への進展に対する対応、新興国の台頭、めまぐるしく変動する経済状況など、山積みする課題に直面していますが、これらの問題を解決するには、専門的な知識・技術を持ち、より実践的な手法を学んだ人材を輩出することが急務であり、各産業界で活躍できる人材の育成排出に今後も努めていきたいと思えます。



第46回技能五輪全国大会ウェブデザイン部門
* 前列右側2名が本校出場者



第46回技能五輪全国大会
ITPCネットワークサービス部門
* 後列中央が本校出場者